

「『ミステリーの館』へ、ようこそ」講釈！

2014.10.18 文責：みぶきあもん

1. 著者紹介

1964年、三重県に生まれる。三重大学教育学部を卒業後、小学校の教師となり、クラスの本ざらいの子どもたちを夢中にさせる本を探すうちに、みずから書きはじめる。『怪盗道化師』で第30回講談社児童文学新人賞に入選。〈名探偵夢水清志郎事件ノート〉〈怪盗クイーン〉〈YA! ENTERTAINMENT「都会のトム&ソーヤ」〉〈少年名探偵 虹北恭助の冒険〉などのシリーズのほか、『バイバイ スクール』『ぼくと未来屋の夏』『復活!! 虹北学園文芸部』『帰天城の謎 TRICK 青春版』（以上全て講談社）などの作品がある。【講談社青い鳥文庫『怪盗クイーン、かぐや姫は夢を見る』著者紹介より抜粋】

2. 「夢水清志郎事件ノート」作品紹介

〈名探偵夢水清志郎事件ノート〉シリーズ

『そして五人がいなくなる』『亡霊は夜歩く』『消える総生島』『魔女の隠れ里』
『踊る夜光怪人』『機巧館のかぞえ唄』『ギヤマン壺の謎』『徳利長屋の怪』
『人形は笑わない』『「ミステリーの館」へ、ようこそ』
『あやかし修学旅行～鶴の鳴く夜～』『笛吹き男とサクセス塾の秘密』
『ハワイ幽霊城の謎』『卒業～開かずの扉が開くとき～』

3. 「『ミステリーの館』へ、ようこそ」講釈

1. 「六月は雨のメメ密室」！

- ◇ 1週間で50枚の短編ミステリ⇒無理ではないよネ？（ちなみに、かくれおん形式だと約8枚と少し）
- ◇ 一之瀬匠、森川美琴、（水野千秋）の後輩s⇒『人形は笑わない』から登場。
- ◇ 「もう一度だけいいます。締め切りは一週間後。一日たりとも、のびません！」
- ◇ 「フリーバッティング用のケージ」⇒片づけるもの？
- ◇ 亜衣、真衣、美衣→I,my,me（従妹のまいん……）
- ◇ 「六月の雨はメメ密室」⇒霧舎巧『四月は霧の〇〇（ラブラブ）密室』
- ◇ 「蝶番がぐらついてきた」⇒そこも壊すか！？（そもそも扉は内開き？ 外開き？）
- ◇ 問題編終了。……で、みんな解けた？

II. 「ミステリーの館」へ、ようこそ！

i. OPENING

- 「目がさめていても寝ていても、見ることができる夢って、どんな夢？」
- はやみねかおるの「赤い夢」。
- で、結局この女は何がしたかったんや。

ii. 第一章～第三章(「ミステリーの館(仮)」へ！)

- 夢水シリーズ随一の萌えキャラ伊藤さん。気に入った人は『魔女の隠れ里』を読もう！
- 「そうか、夢水先生も電話がきらいなのか。」⇒レーチ vs 電話の日々。
- 『マタンゴ』⇒「霧に浮かぶ第三の生物！ 人間を襲うマタンゴ！ 血も凍る恐怖映画の決定版！」「無人島に漂流した男女を襲う怪キノコ“マタンゴ”の恐怖を描いた作品。(略) 特技監督を円谷英二が担当。」
- 各本の厚さです。ご参考までにどうぞ。
 - ✚ 『月長石』：3cm
 - ✚ 『人狼城の恐怖【ドイツ編(3.4cm)、フランス編(2.8cm)、探偵編(2.8cm)、解決編(3.4cm)】』：12.4cm
 - ✚ 『虚無への供物』：2.8cm
 - ✚ 『匣の中の失楽』：3cm
 - ✚ 『ウロボロスの基礎論』：4cm
 - ✚ 『ウロボロスの偽書』：3.4cm
 - ✚ 『ミステリ・オペラ』：4.6cm
 - ✚ 『オイディプス症候群』：4.8cm
- 「そう、ふたりはなにも感じないんだ。推理小説好きのわたしは、灰色の文字を見て心がおどってるっていうのに。」⇒「奇術」「トリック」「赤鯉」「密室」「孤島」「フーダニット」「館」「超常現象」「奇想」「魔術」「探偵」「ホラー」⇒皆さんはちゃんと、心おどりますか？
- 「いくで！」⇒伊藤さんが気に入った人は『魔女の隠れ里』を(ry
- 「りっぱな背広を着た色白で背の高い探偵さん。(略)『あ？』といわれてしまった」⇒彼の正体はもちろん……。
- 「ミステリー」＝「推理小説」,「神秘」,「不思議」,「秘密」(DMSがよくされる誤解ですね)
- 「『～占星術のコーナーにいつてるね。』(略) もじゃもじゃ髪でするどい目をした、やせた男の写真がのっている。」⇒彼の正体は当然……。
- 「推理小説関係の展示」
 - ✚ 「垣根の中につくられた離れ屋」：横溝正史『本陣殺人事件』
 - ✚ 「三階建ての箱型の建物」：鮎川哲也『赤い密室』？

- ✚ 「自動車道路や礼拝堂のある建物」：森博嗣『有限と微笑のパン』？
- ✚ 「十五階建ての巨大アパートのかげに、かくれるように建てられた建物」：？？？
- ✚ 「館のまわりに水路と水車がつくられた建物」：綾辻行人『水車館の殺人』
- マジシャンの呉井さん⇒アメリカのミステリ作家、クレイトン・ロースンが元ネタ……だそうです。
- 「持ち込んだポップコーンを、ガフォガフォと口にほうりこんでいる」⇒伊藤さんが(ry

iii. 第四章～第十三章(「ミステリーの館」へ！)

- リムジン⇒運転自体は普通免許でもOKだそうです。
- 井上快人、川村春菜⇒はやみねかおる『ぼくと先輩のマジカル・ライフ』に登場。
- 「シャトー・ペトリュス 86 年物」⇒¥369,000 也。
- 「数年前から～」⇒本物のグレート天野は5年前に死去。麗？
- 129 頁の挿絵。グレート天野の手に注目。
- 「天野さんは、ワイン、きらいなんですか？ さっきからすこしも飲んでませんね。よければ、ぼくがいただきますよ。」⇒読者からしたら「は？」って感じの教授の台詞が、最後の方で重要になってくるパターンは多い。(Ex. 『いつも心に好奇心！』)
- 「女の子がなにを話してるか、何を考えてるか——それは、男の子にとって永遠の謎でいいんじゃない？」
- そして嵐の山荘へ……⇒「山は下れない！」についての一考察。
- 第2の館へ⇒メンバーは夢水、亜衣、真衣、美衣、レーチ、麗、警部。
- 「たのんだで」⇒伊藤さ(ry。
- 炎に焼かれ、二度と舞台に立てなくなった奇術師の復讐……。燃えるね。
- 「きみに、舞台に立てない～」⇒腹話術で大声を出すのは至難の業だそう。
- 「わたしが知っているのは～」⇒このあたりから「なんかグレート天野が怪しくね？」となり始める。
- 岩清水刑事が紙を発見⇒じゃあ、犯人はそれまで待っていた？
- 再び第2の館へ⇒メンバーは教授、亜衣、真衣、美衣、レーチ、警部。(麗さんは来ていない……？)
- 「ぬけ穴をさがすなんて、むだなことで～」⇒この時点で、教授は「夫人＝人形」がわかっていた。ワインの質問を気にしたのは、グレート天野本人も人形かどうかを確かめるため……？

- 快人の推理⇒どうしてわかった？
- 快人の語るグレート天野の“動機”⇒嫌いじゃないぜ？
- 「ああ、亜衣ちゃんやね！」⇒伊(ry。
- 「ぼくは麗さんのお手伝いをしましょう」⇒幻夢王、最後の仕上げを阻止するため……じゃねえよなあ。
- 「マジシャンが観客からほしいことばは、ただ1つ——」
- 「全能力をかけて、人をあざむこうとする人間がいる」⇒再読した時、真っ先に摩耶雄嵩の顔が浮かんだぼくは……。
- 「つまり、パトカーに乗って〜」⇒麗さんは先にパトカーを始末しておいたのかな？

iv. 第十四章(ようこそ、赤い夢へ……)

- 再び「ミステリーの館」へ向かう夢水⇒目的は「幻夢王の真の目的を確認する」ため。そして、万が一の場合は「その野望を阻止する」ため。
- 物語の終幕に、名探偵と真犯人の対峙——諸君、これほど興奮するシチュエーションはあるだろうか！
- 「えんとつをつけるほうが、いろんな面で便利ですからね」⇒???
- 「わたし、名探偵って、きらいなんですよね」⇒一流の犯罪者によって演じられる不思議な謎も、名探偵によって必ず解かれてしまう⇒謎に魅力を感じていた子どもたちの目から、輝きが失われていく……。
- 「夢水は、目をそらすことができない」「犯罪を演じようとしているかもしれない麗を、とめることができない……」⇒名探偵の存在には……。

4. おはいいにかへて

- 「そう、時代は21世紀をむかえようとしている。この時代に、怪人や怪盗があらわれると思うかい？」(『踊る夜光怪人』)
- 「怪盗——そのレトロなことばに、あなたは、どんなイメージをいだくだろう？ 現代社会の名のもとに魔法も伝説も封じ込められてしまった、この情報社会。おのれの美学を満足させるために獲物を盗みだす怪盗など、絶滅してしまったのではないか？ すでに『怪盗』ということばは古語辞典にのせられているのではないか？ ——いや怪盗は生きている。夜の闇に浪漫を感じ、赤い夢の中で生きている子どもがいるかぎり、怪盗や名探偵がいなくなることはない」(『怪盗クイーンと魔窟王の対決』)